

内視鏡画像を用いた診断精度および新規所見分類作成に関する研究

1. 研究の対象

国立がん研究センター中央病院開院以降、当院にて消化管腫瘍の検査・治療を受けられた方

2. 研究目的・方法

大腸癌や胃癌に代表される消化管腫瘍に対する診断法は依然として改善の余地があります。本研究は、国立がん研究センター中央病院内視鏡科の消化管（食道・胃・小腸・大腸）腫瘍患者の診療データを用いて、臨床病理学的な特性と消化管腫瘍に対する診断精度に関して適切な解析を実施することを目的とします。本研究で得られた結果を新たな診断方法を検討する資料とすることに意義があります。

本研究は、国立がん研究センター中央病院の診療録・データベースの情報を収集し、解析することで実施されます。

研究実施期間：10年間

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：診療録からえられる病歴、治療歴、治療病変の組織学的特徴 等

試料：内視鏡画像

4. 外部への試料・情報の提供

内視鏡画像はデータセンターへ提供し、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。画像提供は、画像上から一切の個人情報排除したうえで、USB等の記録媒体に保存したうえでデータセンターへ郵送します。センター対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

研究責任者：国立がん研究センター中央病院 斎藤豊

研究事務局：国立がん研究センター中央病院 坂本琢

データセンター：京都府立医科大学分子標的予防医学 石川秀樹

関連施設：

国立がん研究センター東病院 池松弘朗 他、

Japan NBI Expert Team 参加施設 25 施設

日欧消化器内視鏡学会共同研究グループ参加施設（国外）4 施設

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究責任者：

国立がん研究センター中央病院内視鏡科 斎藤豊

研究代表者：

国立がん研究センター中央病院内視鏡科 坂本琢